

優しい風の吹く街



2025年が始まりました。昨秋に日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）がノーベル平和賞を受賞しました。唯一の被爆国である日本の被爆者が、核兵器廃絶の平和運動を続けてこられたことに対する大きな評価に感銘を受けました。さらに、被爆者と高校生平和大使たちとの絆も深く、若い世代の世界的な核廃絶運動は、平和な未来の希望へと繋がっていくと感じました。私自身も核廃絶と戦争のない社会の実現に向かって努力を続けていきます。

活動報告

10/5 宝塚市子どもの権利サポート委員会
活動報告（フレミラ宝塚）

10/9・10・11 全国市議会議長会研究フォーラム
（岩手県盛岡市・宮古市・釜石市・遠野市）

●研究テーマ：「主権者教育の新たな展望」

投票率の低下や議員のなり手不足が深刻化。女性や若者など多様な人材の議会への参画をすすめていくために主権者教育が必要。高校生議会などのとりくみが発表された。

●東日本大震災からの復興 視察



震災遺構・宮古市たろう観光ホテル
（防災を学ぶ場所として活用されている）

10/15 高校生平和大使・宝塚市長訪問



小林聖心女子学院高2年の細谷美優花さん

10/21・22・23・25・28 決算特別委員会

10/27 大阪レインボーフェスタ

11/1 議会報告会

11/4 神戸朝鮮高校ミニコンサート

11/9 兵庫県教育研究集会

11/10 宝塚市議会 70 周年記念意見交換会

11/16 地球温暖化防止講演会

11/19・20 部落解放研究第 57 回全国集会

11/24 宝塚市スポーツ協会 70 周年記念式典
桜井シュウ・青空対話集会

1 カリキュラム・オーバーロード改善策

<質問1>

国の基準にもとづき学校が定めた教育課程の時数・内容過多となっており、子どもに過大な負担となっているが、その改善策は。

<教育長答弁>

標準授業時数を大幅に超える場合、各学校において新年度の授業時数の点検を行っている。小学1年生では体力や集中力を考慮し5校時にまでにしたり、中学校での定期テストの実施方法を見直したりしている。負担軽減に努めている。

<質問2>

短縮された夏休み・冬休み期間を元に戻してはどうか。

<教育長答弁>

長期休業中は家族と触れ合う時間の確保や、地域活動自然体験を通じて社会性や自主性を育む大切な期間と考える。特に夏季休業中は近年の気候変動に伴い子どもの健康や通学路の安全面が懸念され、2学期の開始時期については見直しの検討が必要と考える。

<質問3>

新学期準備のため春休みの延長も必要ではないか。

<教育長答弁>

4月当初は新しい教職員を迎えて諸会議をはじめとして、校外学習の下見、新任教職員や臨時教職員の研修が集中することから、時間的余裕がないことが課題となっている。春季休業期間を4月7日から8日に変更することによって余裕を持って新学期を迎えることができる一方、保護者の就労状況から子どもの見守りが難しくなる課題がある。近隣市を参考に検討していく。

<質問4>

拘束時間も長く技術向上の要求も高い、勝利至上主義の厳しすぎる部活動も、負担過多ではないか。指導者の叱咤激励を排除と受けとり、不登校につながった子どもがいるのではないか。外部委託・外部指導者のあり方も含めて「子どもの権利擁護」の徹底を。

<学校教育部長答弁>

部活動のあり方については、宝塚市立中学校部活動ガイドラインを策定し、部活動の適切な運営や指導のあり方について各校に示している。今後も豊かな人間性の育成や子どもの主体性、意見表明の機会などを大切に、適切な運営と指導に取り組む。

北野さと子の意見

部活動は結果重視からプロセス重視へ、自分たちで考えながら展開する活動へと転換・一新する必要がある。

<その他>

小学校5年生の自然学校に対応できる実施施設が少なくなり望む日程が組めないことや寒い時期の実施は子どもの健康面の不安も増すことから、改善策を求めた。



2 学校における カスタマーハラスメント対策

<質問1>

学校・教職員に対する過剰な要求や不当な言動により精神的な負担を増加させ、教育の質を低下させる要因ともなっているカスタマーハラスメント対策は。

<教育長答弁>

そのような事案は、学校長からの報告や相談によって実態を把握している。それらの発言が人権侵害や誹謗中傷に当たる場合には法的対応をとる必要がある。

<質問2>

被害を受けた教職員が安心して相談できる仕組みが必要ではないか。

<教育長答弁>

市教育委員会が主体的に対応していくことを伝えて、心理的負担の軽減を図るとともに、法的対応の必要性や具体的な対応策について、顧問弁護士と密に相談を行いながら迅速かつ適切に対応することとしている。

<質問3>

法的支援のためのスクールロイヤーの活用は。

<教育長答弁>

子どもの最善の利益の保護や、学校、教職員の対応力向上を目的としてスクールロイヤーを配置しており、過剰な要求や不当な言動への直接的な対応に関しては顧問弁護士に相談している。

<質問4>

教育委員会専属の顧問弁護士ということか。

<管理部長答弁>

そのとおりである。本市教育委員会においてはスクールロイヤーと顧問弁護士を両方配置している。

北野さと子の意見

再発防止や未然防止のために、啓発活動や現場での組織的な対応マニュアルの整備や周知が必要である。

3 兵庫県知事選挙と宝塚市長選挙について

<質問1>

兵庫県知事選挙の際「自分には投票しないでください」と呼びかけるポスターが貼られた。自分は当選するつもりがなく他者を当選させるための立候補であり、後半には相手を誹謗中傷するポスターが貼られた。このような常識外のことが罷り通ると、公平・公正な選挙制度が歪められてしまうのではないか。

<選挙管理委員会委員長答弁>

公職選挙法においてはポスターの内容は制限されていないので、直ちに法に抵触するというものではない。「他者を当選させるための立候補」については先日の国会において総務大臣が「候補者が他の候補者の選挙運動を行う場合には、その態様によっては公職選挙法の数量制限などに違反するおそれがある」と答弁されており「個別の事案が公選法上の規定に該当するか否かは具体的な事実に即して判断されるべきだ」と述べられている。現行の公職選挙法では想定できないような活動が、今回の知事選挙の選挙人の投票行動に影響を与えなかったと断言することはできない。国において、選挙ポスターの品位保持規定を新設するなど公職選挙法の改正が検討されると聞いている。

<質問2>

2025年実施予定の宝塚市長選挙に向けての方策は。

<選挙管理委員会委員長答弁>

選挙制度の再整備が必要不可欠である。国の動きを注視し、必要であれば兵庫県都市選挙管理委員会連合会等を通じて、要望や意見を提出していく。また、捜査当局である兵庫県警察本部や宝塚警察署等と連携し適切に対応していくことが重要である。

議会運営委員会 行政視察報告

11/11

東京都墨田区

- ・ 通年議会として災害時等の市長専決処分をなくし、有事対応も議会で議論することで市民の意見を反映
- ・ 本会議・委員会のライブ配信で議会の透明性を高める
- ・ 本会議傍聴席での音声字幕表示、手話通訳
- ・ 議会事務局の提案権を明文化して機能強化



11/12

福島県会津若松市

- ・ 通年議会の導入で市民意見の聴取と政策研究を1年間を通じておこなう
- ・ 15地区での意見交換会に議員は5班編制で臨み、市民の思いを受け止めて適切に対応
- ・ 市民団体との分野別意見交換会も計画
- ・ 地区の給水施設整備やコミュニティバスを通学にも拡充したのは市民意見を反映した実例

両市議会ともに積極的な議会改革の実績があり、よい刺激を受けた。宝塚でも改革をすすめていきたい。

命を守るプロフェッショナル 機動救急隊!!

10月に発足した宝塚市機動救急隊は北野聡子の議会質問から実現した!

→「24時間交代の救急隊だけでなく日勤の救急隊を作ることで、逼迫した救急要請に対応できるのではないか。それはまた、例えば女性消防士が子育て等で現場から離れざるを得ない現状においても復帰し、力を発揮できる。消防隊員の働き方改革にもつながる。」質問の結果、救急車購入や3名の隊員専任が実現した。隊員には兵庫県の女性消防士第1号の新里真澄救急救命士も含まれている。市民から期待も大きい。



風のココロ



市内中学校の吹奏楽部の活動を見学した。子どもたちへの楽器体験では、一人ひとりの生徒が指導・交流し、喜ばれ応援される様子があった。演奏では会場と一体となった充実感がより一層高まった。これぞ心の通い合う部活動だと感じた。